

平成25年度質問と回答

質問	回答
<p>・発達障害かもしれないと心配になった時は何処に相談すれば良いですか？</p>	<p>・就学前のお子さんであれば、こども発達センターこども発達相談室で相談が出来ます。その他、病院やクリニックを受診しお子さんの発達検査を受けることや相談をすることができます。就学後のお子さんであれば、まずは、担任や、各小学校の「特別支援教育コーディネーター」という役割の教員に心配なことを相談してみてください。特別支援学校の「特別支援教育コーディネーター」も、地域の小中学校等からの相談を受けてくれます。 また、市川市教育センターにおける教育相談事業で、教育に関する悩みや不安などに関する相談や就学に関する相談を行っています。 (こども発達センター・指導課)</p>
<p>・講演の中でIQということばが出てきましたが、詳しく説明してください。</p>	<p>・IQとは、知能指数の(Intelligence Quotient)ことで、知能検査の結果を表す数値です。数値が高いほど知能が高いことを表します。知能指数が100に近いほど出現率が高く(人数が多い)70-50は軽度知的障害、50-35は中度知的障害、35-20は重度知的障害とされています。 (こども発達センター)</p>
<p>・父親が単身赴任で家にいない場合、発達障害のある子どもに父親が配慮すべきことはありますか？(父親より)</p>	<p>・お子さんの子育てに当たられるお母さんを精神的に支えていくことが大切です。お母さんが気がかりなことについて一緒に考え、心を寄せて支えていくことで、お母さんが少しほっとでき、自信を持つことができれば、お子さんへの対応に余裕を持てると思います。保護者間で、共通の理解をもつことが、子どもさんへの大きな支援につながります。 (こども発達センター)</p>
<p>・想像力がうまく働かず、相手の気持ちが分からない場合、家庭で取り組めることはありますか？</p>	<p>・相手の気持ちを分からせようとするのではなく、生活の中で、場面ごとに対応の仕方や言葉を教えてあげてください。例えば、仲間に入る時には「入れて」と言ってから入る。欲しいときには「かして」と言ってから借りるなど、まず集団の中で必要だと思われるルールを丁寧に教えてあげることがお子さんにとって学習となります。当然出来るはずと思わず、その場その場で具体的に伝えていくことが大切です。 (こども発達センター)</p>
<p>・ユニバーサルデザインの先進自治体の取り組みを紹介して下さい。</p>	<p>・東京都日野市での取り組みは、NHKで取り上げられ、本としても出版されています。参考文献「通常学級での特別支援教育のスタンダード 自己チェックとユニバーサルデザイン環境の作り方」東京都日野市公立小中学校全教師・教育委員会with小貫悟 東京書籍 (こども発達センター)</p>
<p>・シンポジストの保護者の方に質問します。小さい頃に発達障害の特徴はありましたか？また診断のきっかけについて教えてください。</p>	<p>・息子が1歳になる頃から不安がありました。具体的には運動の不器用さ、言葉の遅さ、また友達と関わるよりも自分の興味のあることだけ黙々とやる等です。診断は、勧められたのではなく、その時の息子の状況が、あまりにも辛い状況だったので、自ら受診を決めました。 (シンポジスト)</p>
<p>・クラスの中に診断名はついていませんが、発達障害の疑いのある子がいます。子どもの困っている状況を明確にして援助していく方法はありますか？</p>	<p>・診断名がついていなくても、お子さんが集団の中に適応できていない状態があれば、支援の方法は同じだと思います。まずは職員がお子さんの状態を確認した上で、お子さんの困っている状況にあわせた支援を一貫して職員間で行っていくことが大切だと思います。また援助をする際には、その子だけの支援という形よりも、クラスのどの子にとっても分かりやすいユニバーサルデザインの考え方で、導入していくといいでしょう。 (こども発達センター)</p>

<p>・クラスの中に発達障害ではないかと思われるお子さんがいます。診断を受けたほうが良いと思うお子さんと、ただのわがままな子との違いはありますか？</p>	<p>・発達障害があると思われるケースでは、人の関わりや遊び方、コミュニケーションの仕方など、子どもの生活全体で見えていく必要があります。また失敗経験から学ぶことは難しく、叱られても同じことを繰り返してしまったり、相手の気持ちや場の空気を理解できずに関わりが一方的になってしまうことが多いです。このような生活面での特徴が、小さい頃から続いているかどうかといった視点で慎重に見ていくことが大切です。</p> <p style="text-align: right;">(こども発達センター)</p>
<p>・発達障害と診断をうけていませんが、通常学級に通いながらどんな支援が受けられますか？</p>	<p>・「特別支援教育」が実施され、通常の学級においても、個々の教育的ニーズに応じた支援を行うことになっています。また、学級集団として、子ども達の社会性を伸ばしていくことも重要です。お子さんに必要な支援や、学級の中でできる支援は何かについて、学級担任と相談してみましょう。また、学校や担任との連携を進めたり、支援を引継いでいったりするために、「市川スマイルプラン」を作成することも有効です。お子さんが自分らしく学び自立していくために、達成感を持ちながら学習し、充実した時間をすごしながら、生きる力を身につけられる学びの場であるかどうかを、長期的な視点で吟味していくことも重要です。</p> <p style="text-align: right;">(指導課)</p>
<p>・各学校に配置されている特別支援コーディネーターについて教えてください。また、特別支援コーディネーターの研修はどのような内容で行われているのですか？</p>	<p>・特別支援教育コーディネーターは、各学校・園において、校務分掌のひとつとして、教員の中から指名されるものです。通常の学級の担任の他に、特別支援学級担任や通級指導教室担当者が指名されることもあります。</p> <p>特別支援教育コーディネーターは、特別支援教育の推進のために、校内委員会や研修会の企画・運営、校内の支援体制についての連絡調整、外部関係機関等との連絡調整、保護者からの相談への対応などをします。</p> <p>市教育委員会が実施する「特別支援教育コーディネーター研修会」は、年に5回実施しています。内容としては、障害特性の理解や支援方法に関する研修、特別支援教育に関する情報の提供、市川スマイルプランの作成についての確認、各学校の取り組みについての情報交換などのほか、夏季休業中には、医師や専門家による講演会も行っています。</p> <p style="text-align: right;">(指導課)</p>
<p>・学校に「ゆとろぎ教室」がありますが、何処の学校にもありますか。利用の仕方を教えてください。また、どんな資格の人がいますか？</p>	<p>・「ゆとろぎ相談室」は、市川市立の全小学校にあります。「ゆとろぎ」という言葉は「ゆとり」と「くつろぎ」を合わせ、「り・くつ」(理屈)を抜いた造語です。休み時間や放課後等に子どもたちが自由に相談室を訪れ、遊んだり、話をしたりのんびりとくつろいだりするためのものです。</p> <p>「ゆとろぎ」相談員は、特に資格を必要としませんが、学校教育への理解や、子どもの発達支援への情熱を有する方をお願いしています。週に2日～3日の勤務です。子ども達と一緒に遊んだり、話を聞いたり、活動を見守ったりしながら、子どもどうしのコミュニケーションを促したり、調整したり、簡単な相談にのったりします。また、希望があれば、保護者からの相談を受けることもできます。</p> <p style="text-align: right;">(指導課)</p>
<p>・「スマイルプラン」は、市川市独自の取り組みですか？</p>	<p>・「スマイルプラン」は、市川市独自の取り組みです。「スマイルプラン」を通して、幼児期から一貫した支援で子ども達の成長を支えていくために、今後もより一層活用が進んでいくように取り組んでまいります。</p> <p style="text-align: right;">(こども発達センター)</p>
<p>・成年の発達障害者の保護者が、障害を受け入れられないとき、どう対応したら良いでしょうか？</p>	<p>・お子さんが成年になったとしても、保護者にとっては子どもの障害を受け入れることは難しいことがあります。支援者としては、そのような保護者の気持ちを受け止めて、ご本人が多く時間を過ごす場所で、障害を正しく理解され、適切な支援を受けて安心して過ごせるように対応することが大切です。</p> <p style="text-align: right;">(こども発達センター)</p>